

# 地域と共に歩む

富山商工会議所議員  
インタビュ④



「楽しい会社、楽しい仕事」で成長  
取り巻く課題に対応していく力に

富山商工会議所 副会頭  
ダイト株式会社  
代表取締役社長 大津賀 保信

今年創業82周年を迎えるダイト株式会社。1942年、富山家庭薬の東南アジア向け輸出統制会社として発足し、終戦後より医薬品製造を始めました。現在は原薬部門と製剤部門を軸として、自社で原薬から製剤までを一貫製造する体制を構築し、人々の健康な生活を支える高品質な医薬品を安定供給し続けています。将来に向け世界市場や新領域の進出を視野に入れるなかで、常に社員自らの成長と会社の成長が連動する職場をつくり、選ばれ続ける企業を目指す同社代表取締役社長の大津賀保信さんにお話を伺いました。

## 社長就任時はどうでしたか？

「社長就任は2012年、61歳のときです。東証1部に上場して2年目で、上場企業としての責任をひしと感じていました。国がジェネリック薬品を推進し始めた時期とも重なり、原薬と製剤の両面から設備の拡充を推し進めてきました。経営のかじを取るうえで、営業から研究開発、品質管理、財務など各部門を経験してきたことが支えとなりました。常に意識してきたのが、経営理念にある、社員が『楽しい会社、楽しい仕事』を実感できる職場づくり

です。社内では役職に関係なく『さん付け』を浸透させるなどして、風通しを良くすることは社員のやる気を引き出すだけでなく、品質にも関わってきます。諸問題が起こったときにも報告しやすい雰囲気があることで、冷静かつ迅速な対処につながります」

## 今後、富山のために何がしたいですか？

「薬品業界が発展すると、付随する容器やパッケージなどの業界も発展します。例えば現在、ドラッグストアの台頭で配置家庭薬は厳しい状況ですが、県内には60・70社の薬関連企業がありますから、できるだけ地元で調達する、地元企業を優先するなど、県内企業が連携しやすいシステムを構築していく必要があると考えます。県や富山商工会議所では、スタートアップ企業の支援についても力を入れています。少子高齢化が加速度を上げて進むなかで、若者の地元定着やUターンにつなげるためにも、地元企業をいかに発展させていくかが、ますます重要になってくると思っています」

## 会員の方々にメッセージをお願いします。

「私は『着眼大局、着手小局』を座右の銘として、世の中全体の流れをよく見て、その中で自分の立ち位置や方向性を考えることを基本としています。皆さんには商工会議所を利用して、会

員同士の交流のなかで他業種とも比較しながら、この先の自分たちの事業を考え、見直す機会にしてほしいと思います。進化論で有名なチャールズ・R・ダーウインが『最も強いものが生き残るのではない。最も変化に敏感なものが生き残る』という名言を残しているように、ビジネスも過去の延長線上に未来はなく、例えば、新幹線の敦賀延伸やキャニオンルートなどもチャンスととらえて、新しいことに挑戦してほしいと思います」

## 取材を終えて

「経営者として社員が一番大事というの言ううまでもない話。社員が働きやすい会社であることが当社の特長になっています」と語る大津賀社長。3期目の副会頭としてもこれまでの経験を次世代に引き継ぐ役割を果たし、よりよい組織づくりに尽力されています。



▲2022年の80周年記念式典のあいさつで、引き続き創業100年企業を目指していくことを強調した大津賀社長。変化する時代に順応できる後継者の育成にも力を注いでいます。

DAITOダイト株式会社

設立 1942年(昭和17年)  
富山市八日町326番地  
TEL: 076-421-5665

